

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	65%	自校A B層の割合	60%

目標達成に向けた取組			
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	- 校内研究に全教員が積極的に取り組み、「児童が自らの知識や経験を活用しながら課題を解決する」授業を実践する。 - ICT機器を積極的に活用し、児童の学び合いを重視した授業を実践する。	- 東京ベーシックドリルの診断テストを年間3回実施する。また、年度末にはその学年の診断テストを実施し、次年度への引継ぎ資料を得る。 - 区事業の放課後補習教室に加え、学校独自の補習「三松補習日」を毎月1回実施する。	「学年×10分+10分」の家庭学習に取り組むことを目指す「家庭学習キャンペーン」を1回12日間、年間3回実施する。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	- 話し合いの中で、自信をもって発言できるように、個別に自分の考えをもたせる支援をする。 1時間の中で、全員が自信をもって答えられる問題・発問を必ず用意し、自己肯定感を高める。	- 診断テスト下位50%の児童を、放課後補習教室へ繋げ、算数の基礎基本定着をサポートする。 - 担任や専科教員による三松補習日において、算数以外の基礎基本定着をサポートする。	- ドリルパークを1日決められた問題数解き、ポイントをためる取り組みを、家庭と協力して実施する。 - 過年度の問題や読書など、無理なく取り組める課題を児童の実態に合わせて提示する。
成果指標	全国学力調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」肯定的な回答 80%以上	東京ベーシックドリルの診断テスト12月実施7割達成者 70%以上	家庭学習キャンペーン3学期実施11日以上達成者 90%以上